

1～4号機は燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況やさまざまな取組みをお知らせします。

## 発電所の安全性向上に全力で取り組んでいます

当社原子力事故から7年が経過しましたが、今なお、福島県の皆さま、広く社会の皆さまに大変なご迷惑とご心配をおかけしておりますことを、あらためて心よりお詫び申し上げます。

当所では「あのような事故を二度と起こさない」という強い決意のもと、発電所の安全性向上に向け、設備の対策やそれらを適切に使うための現場対応力の強化を行っています。

### 津波対策

重要設備の津波浸水による被害を低減

### 注水手段の強化

使用済燃料を冷やすための注水手段を強化

### 電源の強化

電源喪失に備え、電源機能を多様化・多重化

### 現場対応力の強化

緊急時に復旧対応する社員の技術・技能を向上

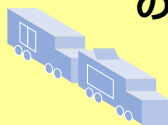
※ ○ : 原子力事故以降に新たに実施しているもの

### 重機（ガレキ撤去用）や 電源車などの操作訓練



ドローン

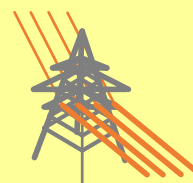
### ガスタービン発電機車の 配備



× 2 セット

(発電機車と制御車で1セット)

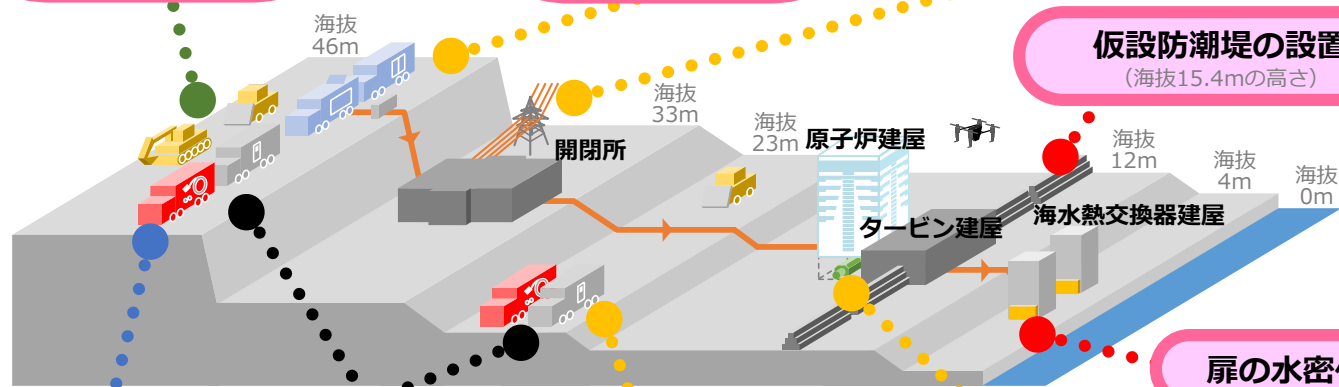
### 送電線



4 回線

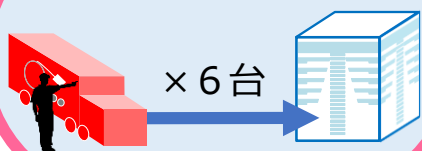
### 仮設防潮堤の設置

(海拔15.4mの高さ)



### 扉の水密化

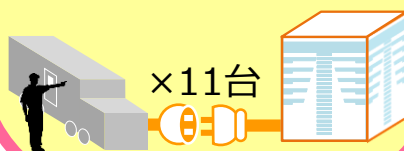
### 消防車の配備



× 6 台

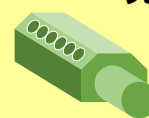
(既設の消火用を含む)

### 電源車の配備



× 11 台

### 非常用ディーゼル 発電機



× 12 台

(原子炉1基あたり3台)

地域の皆さまにご心配をおかけすることのないように、昨日よりも今日、今日よりも明日の「安全レベル」を高める取組みを、引き続き、全力で進めてまいります。

# 発電所トピックス

## 運転員が技術・技能を競いました

当所では、燃料の安定した冷却を継続していくため発電所を常に監視している“運転員”の技術・技能の向上に向けた取組みを進めています。

今回、今年度で2回目となる、技術・技能競技大会を実施しました（大会期間：1月～2月）。



12チーム（72名の運転員）が、機器の故障から原因を究明し、法令に基づく判断・連絡を行うなど、トラブル発生時の対応力について競い合いました。

## 「高い技術力」を備えた運転員を育てる

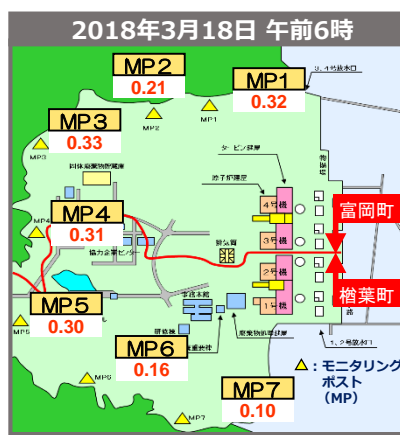
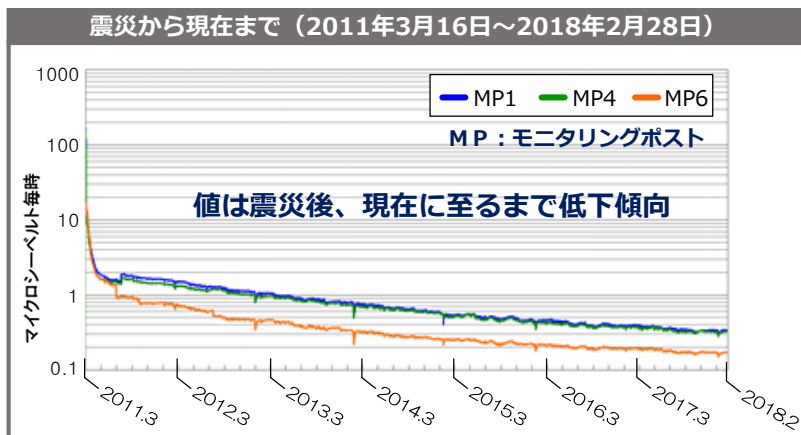
運転員には、さまざまな状況下でも、冷静・的確な判断や機器操作により発電所を安定した状態に保つ「技術力」が求められます。

私は、この地域と発電所の安全を守る責任を果たすため、運転員の技術・技能の向上に引き続き取り組んでまいります。



大会の企画、参加者の評価を行った  
 運転管理部長 金成 公彦  
 (いわき市出身)

## 発電所周辺の空間線量率



### 参考データ

原子力規制委員会  
 放射線モニタリング情報より  
 (2018年3月18日午前6時)

**富岡町**  
 文化交流センター  
 (富岡町役場敷地内)  
**0.176**  
 マイクロシーベルト毎時

**楢葉町**  
 楢葉町役場  
**0.081**  
 マイクロシーベルト毎時

単位は、マイクロシーベルト毎時

## 燃料の保管と冷却状況

- 燃料はすべて、1～4号機の使用済燃料プールで保管しています。プール水の温度は約30℃で管理し、常に監視しています。
- プールの冷却が停止した場合、プール構造体（鉄筋コンクリート）の強度を保つために設定した温度（65℃）に達するまで約7日と評価しており、その間に設備の復旧や対策がとれるよう備えています。

	1号機	2号機	3号機	4号機
燃料の保管数	2,534体	2,482体	2,544体	2,516体

## 編集後記



楢葉町での暮らしを再開してから、まもなく1年が経とうとしています。

子供たちも園や小学校にすっかり慣れ、友だちと楽しく過ごしています。

お世話になっている先生方や地元の方々のためにも、発電所のことを自分の言葉で分かりやすくお伝えしていきたいと思ひます。

【関】

福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き燃料の安定冷却を継続してまいります。

ご質問・ご不明な点がございましたら、こちらまでお問合せ下さい。